

YAMATO Nature Circle



2025年12月

葉画家・群馬直美のヤマトビオトープ園の葉っぱたち Vol.83

— 絵と文 群馬直美 —

黒い点々《ユズリハ》

3年前の6月にもヤマトビオトープ園のこの場所で、ユズリハの葉に心ときめいた私。
そのとき手にしたのはつやつやの緑色で、虫に食われた葉っぱだった。
あれから3つ歳をとり、またしてもユズリハの葉っぱに心ときめくとは！
今回は、黄色くなって茶色に変色しつつある葉っぱ。
立川のアトリエで一人静かに、ユズリハの葉と向き合い描いていると
……遠い遠い微かな記憶の種が、私の耳の奥底で音となって響いてきた。
——キョキキョ、錆びついたブランコの音が聴こえる。
そして、子どもたちの笑い声……。
そうだ、あの時だ。今よりずっと若くてきれいで元気だった私は、
アトリエ近くの国営昭和記念公園を秋の木の実散策でさまよい歩いていた。
すると突然、目の前に黄色いバナナをたくさんぶら下げた樹が現れたのだった。
「うわぁ、おいしそうなバナナがたくさん！」
と駆け寄ると、それはユズリハの黄葉した葉っぱだった。
秋になるとユズリハの葉っぱはバナナに変わるのか！と驚いている私を尻目に、
大勢の子どもたちが笑い転げブランコ遊びに興じていた。
バナナの皮の黒い点々は「甘みが増して絶品の味になったよ」のお知らせだとか。
ヤマトビオトープ園のユズリハの葉っぱにも黒い点々がたくさん。
バナナ同様「絶品の一枚の葉になったよ」の証しかな。
そう考えるとシミやシワも「絶品の人になったよ」のお知らせ、と思えば心もはずむ。
——と書いて見上げた夜空に、バナナの形をした三日月が。
よく見れば、三日月さんにも黒い点々……。



『踊る野菜』 絵・文 群馬直美／世界文化社より **2025年12月15日発売!!**

ページをめくるたびに、原寸大の野菜の絵！17年の時をへて、熟成された一冊となりました。
(オールカラー・日英二カ国語本・A4並製・糸綴じ・両観音開きページ含む104頁・定価3,000円+税)
※ヤマトビオトープ園の葉っぱたちの絵も2点掲載されています。

《表紙の絵》ユズリハの黄葉

「黄色と茶色の美しきハーモニー」

・ヤマトビオトープ園にて2025.9.29採集
(作品の完成日は、2025年10月24日)

・紙(ファブリアーノ エキストラホワイト極細目)/テンペラ・油絵の具
size:230mm×160mm ©Naomi Gumma

群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、“葉っぱ”をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中の一つ一つのものは全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。著書に『言の葉 葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の実の美術館』『葉っぱ描命』他。東京都立川市在住。 <https://www.wood.jp/konoha/>